

授業計画

科目名	保育の歴史と法 I				担当	持田 陽子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・必修・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の歴史の変遷について理解する 基本的人権や子どもの人権について理解する 日本国憲法などの基礎を理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育の歴史や現代社会における諸問題を通して基本的人権や基礎的な法制度を学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 現代社会における諸問題を通して基礎的な法制度を理解し、守られるべき人権の理解を深める</p>							
授業計画							
第1回	法の目的と本質						
第2回	法の体系とその効力						
第3回	日本国憲法①						
第4回	日本国憲法②						
第5回	基本的人権①						
第6回	基本的人権②						
第7回	自由権と社会権						
第8回	新しい人権						
第9回	司法と民法						
第10回	世界人権宣言と子どもの権利に関する条約						
第11回	保育政策の歴史の変遷と今後						
第12回	判例検討①						
第13回	判例検討②						
第14回	まとめ						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	嗟峨野書院			ポイント法学			
参考文献				適宜授業にて資料配布			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	保育の歴史と法Ⅱ				担当	佐々木明美	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・必修・選択必修・幼免		
【授業全体の内容と概要】							
保育と教育の歴史の変遷について学び、子どもを一人の人として認められることを理解する。人間としての人権。子どもの守られるべき人権、について理解し、憲法で守られる人権や教育についての思考を習得する。							
【授業全体の内容と概要】							
基本的人権、利用者とサービス提供者との間で生ずる法律関係に関する民法、教育基本法、学校教育法などを習得し主体的に考えて行動する基礎力を身につける。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
①乳幼児の社会的保護と教育の歴史を理解する。 ②「保育」とは何かを歴史的に理解する。 ③保育の歴史を振り返り、こども観を確立する。							
授業計画							
第1回	保育、教育の歴史と人権の歴史について①				歴史から見る子どもと教育		
第2回	子ども観の変遷				近代ヨーロッパのこども観と日本におけるこども観		
第3回	子どもの権利と条約について				子どもの権利の考え方		
第4回	保育について				保育についての考え方		
第5回	保育施設の誕生				幼稚園・保育所的保育施設		
第6回	保育の定着と普及				幼稚園の普及、保育所的保育施設の増加、幼稚園令と一元化問題		
第7回	戦争と保育				戦時中の保育施設と保育運動の誕生		
第8回	戦後保育制度の確立と展開				戦後復興と保育		
第9回	//				高度経済成長期・安定成長期の保育		
第10回	少子化対策と保育				少子化対策としての保育制度		
第11回	社会福祉基礎構造改革				措置からサービスへ		
第12回	規制改革・社会保障制度改革				公立保育園の民営化・認可外保育所		
第13回	幼保一元化				認定こども園の誕生		
第14回	孤育て虐待				「保育にかける」から「保育を必要とする」へ		
第15回	まとめ				試験orレポート		
	出版社名				書籍名		
テキスト					必要に応じてプリントを配布		
参考文献	フレーバル館				保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育保育要領		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・レポート						

授業計画

科目名	就職支援				担当	佐々木明美	
実務経験						授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	7	8	教養・必修・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
進路を意識し履修意欲を高め、社会人としての知識技能を身につけるとともに、これからどう生きていくのかを考える。							
【授業全体の内容と概要】							
就職を念頭に置き、コミュニケーション演習・就職対策指導を2年間通じて継続的に学習する。							
各回の内容を習得しながら身につけていき、社会人としての高い人間性を目指す。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
「保育士として」「社会人として」のルールを学びながら進路意識、目的意識を明確にする。							
授業計画							
第1回	就職支援学習について				第16回	就職の流れについて	
第2回	就職先と保育所実習について				第17回	自己分析	
第3回	保育所実習先について				第18回	ジョブカードの作成	
第4回	実習依頼の方法・園(所)訪問の方法				第19回	ジョブカードの修正	
第5回	自分の目指す保育士について				第20回	目指す保育者像について	
第6回	ジョブカード作成				第21回	ボランティア活動と就職計画	
第7回	就職活動の流れ				第22回	自己PRについて	
第8回	求人の動向や就職試験の傾向				第23回	実際の仕事について	
第9回	履歴書の書き方				第24回	過去問題に挑戦(小論文)	
第10回	実際の仕事について				第25回	過去問題に挑戦(専門試験)	
第11回	就職につながる実習のありがた(保育所)				第26回	履歴書作成について	
第12回	保育所に関する調べ学習				第27回	模擬個別面談	
第13回	グループ発表				第28回	模擬グループ面談	
第14回	自己理解と自己PRについて				第29回	模擬面談	
第15回	就職につながる実習のありがた(施設)				第30回	まとめ 進路希望調査	
テキスト	なし						
参考文献							
単位認定方法	出席日数・提出物等						

授業計画

科目名	子ども家庭支援の心理学				担当	持田陽子・久保田智子	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2単位				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>生涯発達及び子どもの精神保健の基礎を理解する。加えて、家庭支援や子育て支援について発達の観点から学ぶことを通して、子どもやその家庭について包括的に捉える視点を身につける。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>生涯発達及び子どもの精神保健について基礎的な事項を学ぶ。また、家庭や家族について基本的な定義や特徴を踏まえたうえで、それらの現代の社会状況とそこにおける子どもの育ちについて理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯発達に関する心理学、及び、子供の精神保健に関する基礎的な知識を身につける。 家庭や家族の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点をもつ。 子どもとその家族を取り巻く現代の社会的状況について理解する。 							
授業計画							
第1回	発達とは						
第2回	乳幼児期の発達について						
第3回	学童期から青年期の発達について						
第4回	成人期から老年期の発達について						
第5回	家庭・家族の意義と機能及び親子関係の定義						
第6回	子どもの発達における親子関係の重要性について						
第7回	親子関係と親としての発達について						
第8回	現代の子育てをめぐる社会的状況①変遷の理解						
第9回	現代の子育てをめぐる社会的状況②課題の検討						
第10回	多様な家庭とその理解						
第11回	特別な配慮を必要とする子どもと家庭						
第12回	子どもの精神保健について①環境が子どもの育ちに与える影響						
第13回	子どもの精神保健について②発達障害						
第14回	子どもの精神保健について②心身症と関連する疾患・症状						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	北樹出版			子ども家庭支援の心理学			
参考文献							
単位認定方法	出席数、授業態度、提出物、試験						

授業計画

科目名	子どもの理解と援助				担当	平野 美緒	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 子ども理解に基づく保育実践を行うことの意味について理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法を身につける。また、子ども理解に基づく保育士の援助や態度について理解し、実践できるようになる。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子ども理解のための基盤となる発達を学び、保育者として適切な援助が行えることを目的とする。実践場面での具体的なかかわりや援助を通して子ども理解を深め、保護者支援を含めた対応について習得するように講義を進める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の発達や学びを把握することの意味について理解する。 ・子どもを理解する上での基本的な考え方と具体的な方法を理解する。 ・子ども理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、実践できるようになる。 							
授業計画							
第1回	保育における子ども理解の意義						
第2回	子どもを理解する視点① ～保育者と子どもとの関わり						
第3回	子どもを理解する視点② ～子どもの仲間関係と遊び						
第4回	子どもを理解する視点③ ～葛藤やつまずき						
第5回	子どもを理解する視点④ ～集団における経験と育ち						
第6回	子ども理解の方法① ～行動観察・面接						
第7回	子ども理解の方法② ～発達検査・知能検査						
第8回	子ども理解の方法③ ～保育の観察と記録						
第9回	子ども理解の方法④ ～省察と評価、保育カンファレンス						
第10回	保育における発達援助① ～発達の課題に応じた援助と関わり						
第11回	保育における発達援助② ～「気になる子」への対応と協働						
第12回	保育における発達援助③ ～発達の連続性と就学への支援						
第13回	子育て支援と保育相談① ～カウンセリングの基礎理論						
第14回	子育て支援と保育相談② ～模擬保育相談						
第15回	試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	光生館		子どもの理解と援助～育ち・学びをとらえて支える				
参考文献							
単位認定方法	最終講に行う試験で評価します						

授業計画

科目名	保育内容(人間関係)				担当	久保田智子	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 乳幼児期における人とかかわりの発達について理解し、人とかかわる力を育てる保育実践について考える。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 現代社会における人との関わりに関する子どもの育ちの課題や乳幼児期の人との関わりの発達に関して学ぶ。その上で、園生活における人とかかわりの育ちについて、事例検討等を通して考えていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期における人とかかわりの発達について理解する。 ・保育における人とかかわりの意義について理解する。 ・園生活における子どもの人とかかわりの育ちを支える保育の方法について理解し、考えることができる。 ・現代社会における子どもの人とかかわりの育ちの問題点について理解する。 							
授業計画							
第1回	人と関わる力とは何か						
第2回	子どもの社会化						
第3回	子どもを取り巻く現代社会の環境について						
第4回	「人との関わり」に関する発達①乳児期						
第5回	「人との関わり」に関する発達②幼児期						
第6回	領域「人間関係」について①3歳未満児						
第7回	領域「人間関係」について②3歳以上児						
第8回	保育場面における「集団」の形成について						
第9回	保育場面におけるグループ活動について(自治的集団として)						
第10回	保育場面における「人と関わる力」の育成についての事例検討①						
第11回	保育場面における「人と関わる力」の育成についての事例検討②						
第12回	保育場面における「人と関わる力」の育成についての事例検討③						
第13回	保育場面における「人と関わる力」の育成についての事例検討④						
第14回	保護者とかかわりと子育て支援						
第15回	試験						
	出版社名	書籍名					
テキスト	萌文書林	新保育内容シリーズ(新訂)子どもと人間関係					
参考文献	フレーベル館	保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説書 幼保連携型認定こども園教育保育要領					
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験・提出物等						

授業計画

科目名	保育内容(表現)				担当	佐々木 明美	
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養(必修)・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】 子どもの表現を育むための「保育者の感性や表現力」を磨く							
【授業全体の内容と概要】 ①理論学習 ②実技 ③グループによる表現創作課題・創作・発表							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 理論的・実践的な学び・演習課題の創作・発表を通じ、創造的・想像的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す。①「領域表現」の基本理論を理解する。②乳幼児期の表現の特徴、生活や人間関係との深いかかわりを知る。③気分、心情を自分らしく表現し他者とかかわる子どもの育ちを支える、学生自身の「感性表現力を磨く」④グループによる課題への取り組みを通して、保育者の必要な「協力」「創意工夫」の態度を養う。							
授業計画							
第1回	授業の概要				授業の目的・授業計画・		
第2回	領域{表現}について				領域「表現」にかかわる変遷や内容について		
第3回	子どもの表現について				子どもの表現行動の特徴などについて		
第4回	保育者の感性を磨く演習	①	感じる・きく・動く・創る・歌う・唱える・などの経験を通して子どもの表現に応える「保育者自身の感性と援助スキル」を磨く。				
第5回	保育者の感性を磨く演習	②					
第6回	保育者の感性を磨く演習	③	童謡・唱歌・わらべ歌などの実際の演習				
第7回	保育者の感性を磨く演習	④	人形劇・紙芝居・創作表現の演習				
第8回	保育者の感性を磨く演習	⑤	造形, 制作、絵画等の演習				
第9回	グループ演習	①					
第10回	グループ演習	②	子どもの表現行動に関する理論を踏まえ、子どもの感性・表現に深くかかわるテーマを軸に、造形、音楽、身体、言語などによる創作的表現活動を作り上げる。				
第11回	グループ演習	③					
第12回	グループ演習	④					
第13回	課題発表						
第14回	課題発表				グループ演習課題の発表と評価		
第15回	まとめ				学習のまとめ レポート提出		
	出版社名				書籍名		
テキスト	ミネルヴァ書房				最新保育講座11 保育内容「表現」		
参考文献	フレーバル館				保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・レポート						

授業計画

科目名	保育実践演習				担当	佐々木明美(こども福祉科全教員)		
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例を交えながら演習を行う				授業形態	演習		
単位数	2				学科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもに関する自発的・総合的な学習能力を習得する。 子どもに関する現代の問題解決について、問題等の現状分析・検討を行う。 問題解決のための対応、判断方法について検討する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>これまで習得してきた知識や技術の総まとめとして、各学生が自分の問題意識や興味・関心に基づいて研究テーマを設定する。 そして、そのテーマについて、文献研究、調査、発表、討論などを繰り返しながら、各学生が自分なりに理解を深め、研究レポートの形にしていく。授業方法は、数名ずつのグループにこども福祉科専任教員がかかわり、ゼミ形式で指導していく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもや保育を取り巻く諸問題に関して、問題意識を持ち、自ら問題点を発掘することができる。 自発的かつ主体的に学ぶ姿勢や日々の学習を蓄積していく習慣を身につける。 問題解決のために必要な情報を収集し、自分なりに解決策を提案できる。 研究内容を研究レポートにまとめ、他者にわかりやすく説明できる。 研究の過程や結論で得られた成果を保育実践の中で生かす方法を考えることができる。 								
授業計画								
第1回	オリエンテーション			授業の概要・方法説明				
第2回	「子どもの最善の利益を考慮した保育」の意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。							
第3回	①日本の子育て環境の問題点について:少子高齢化社会、学歴社会、伝統的な子育て観、ライフワークバランス問題等を新聞、雑誌その他の最新資料から集めて、整理する。							
第4回	②日本の保育制度の問題点について:保育経営者、保育者、保護者の立場から考えたり、意見交換をする。							
第5回	③保育環境の問題点を補うための方策:現在の問題点を政治的、経済的立場、保護者の立場、子どもの立場から考える。							
第6回	保育環境の改善①子どもの安全と安心のための環境							
第7回	保育環境の改善②子どもの活動発展のための環境				<p>3つの観点から自分で具体的な課題を設定する</p> <p>①最近の子どもの育ち(しつけ等も含めて)に対する家庭、社会環境の影響。</p> <p>②現行保育制度(保育園、幼稚園、認定子ども園)</p> <p>③小学校教育の基礎としての幼児期の教育のねらいと内容</p> <p>課題選択の理由、文献資料、問題に対するまでの指摘、論考をいれる、自分の解釈、意見を述べる。</p>			
第8回	保育環境の改善③地域との連携協力							
第9回	総合的な実践の結びつき①保育者としての基本的なふるまい方							
第10回	総合的な実践の結びつき②子どもの内面理解と受容							
第11回	総合的な実践の結びつき③子どもの活動発展のためのかかわり							
第12回	総合的な実践の結びつき④保護者とのかかわり:							
第13回	総合的な実践の結びつき⑤保育教材の創意工夫							
第14回	保育者としての向上①:保育者の振り返り							
第15回	保育者としての向上②:保育の世界の動向、重要性の確認							
	出版社名	書籍名						
テキスト	大学図書出版	保育・教職実践演習						
参考文献	フレーバル館	保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定子ども園教育保育要領						
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物							

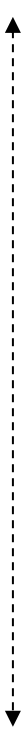
授業計画

科目名	卒業研究				担当	舟木 賢治(こども福祉科全教員)	
実務経験						授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15	15	教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 個人またはグループによるプロジェクト学習(研究)を進めて、卒業論文あるいは創作作品の完成と発表をめざす。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 個人またはグループで研究を推進し、節目ごとに受講生全員で相互検討会を開催する。教員による指導は、適宜、個別的に行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 以下の到達目標を設定し、保育現場や実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的能力の形成を図る。</p> <p>①卒業研究として適切なテーマを設定することができる ②設定したテーマの情報を収集し、分析することができる ③研究・論文執筆計画を作成することができる ④卒業論文の書式にそって執筆し、研究成果を卒業論文としてまとめることができる</p>							
授業計画							
第1回	ガイダンス				「卒業研究」の授業計画について解説		
第2回	卒業研究とは						
第3回	卒業研究の進め方について						
第4回	卒業論文のまとめ方について						
第5回	研究題目(仮題)の検討						
第6回	研究題目(仮題)の発表と討議						
第7回	研究計画の検討						
第8回	研究計画の立案・作成						
第9回	研究および論文作成計画の発表(1)				各自の研究・論文作成計画からの学び合い		
第10回	研究および論文作成計画の発表(2)						
第11回	先行研究やデータの収集						
第12回	先行研究やデータの収集						
第13回	先行研究やデータの収集						
第14回	先行研究やデータの収集						
第15回	中間発表とその準備について						
第16回	中間発表						
第17回	中間発表						
第18回	論文作成および作品制作						
第19回	論文作成および作品制作						
第20回	論文作成および作品制作						
第21回	論文作成および作品制作						
第22回	論文作成および作品制作						
第23回	論文作成および作品制作						
第24回	論文作成および作品制作						
第25回	最終経過報告						
第26回	卒業研究発表の準備と個別指導						
第27回	卒業研究発表の準備と個別指導						
第28回	卒業研究発表の準備と個別指導						
第29回	卒業研究発表会						
第30回	卒業研究発表会						
	出版社名				書 籍 名		
テキスト					適時、資料を配布する。		
参考文献							
単位認定方法	卒業論文・創作作品・中間発表・卒業研究発表						

授業計画

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)				担当	舟木 賢治	
実務経験						授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・必修・ 選択必修 ・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>学校現場で教育活動を展開するうえで欠かせない活動である教育相談に必要な、生徒の学校適応上の諸問題についての理解と総合的に援助、助言を行うための学校カウンセリングの理論と方法を学習する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>教育相談の理論と方法を学ぶとともに、教育相談の視点から、学校現場での事例を通し、生徒の心理・発達上の様々な問題に対する理解と支援方法を学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における教育相談の理論と方法を習得する。 2. 演習を通し、現場での生徒の諸問題へのアセスメントと支援の方法の基盤を形成する。 3. 保護者、スクールカウンセラー、専門機関との連携の体制のあり方を理解する。 							
授業計画							
第1回	教育相談の定義と必要性						
第2回	教育相談の内容と方法						
第3回	来談者中心のカウンセリングとカウンセリング・マインド						
第4回	予防的・開発的カウンセリング						
第5回	教育相談に役立つ心理療法 (1)精神分析						
第6回	(2)行動療法・認知行動療法						
第7回	(3)家族療法・ブリーフセラピー						
第8回	教育アセスメント:問題のある児童・生徒の早期発見・観察法						
第9回	心の問題と教育相談						
第10回	いじめと教育相談						
第11回	不登校と教育相談						
第12回	学級崩壊と教育相談						
第13回	発達障害と教育相談						
第14回	関係機関との連携・協力						
第15回	試験						
	出版社名	書 籍 名					
テキスト	北大路書房	エッセンス学校教育相談心理学					
参考文献	教育開発研究所	教師のためのカウンセリング技術					
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	子どもの世界				担当	岡崎由美子	
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例に基づいた講義を行う					授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・必修・ (選択必修) ・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 子ども理解に基づいた援助のあり方を考える力や子どもの世界を大切にした保育を構想する力を身につける。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 実際の保育の場で生活する子どもの遊びや生活を観察・体験しながら授業の中で討議し、子どもの楽しさや面白さ、保育の奥深さを理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育者を志す学生があらかじめ理解しておく必要のある事項について考察をする。</p>							
授業計画							
第1回	オリエンテーション				 <p>いろいろな場面を考え、討議しながら理解していく。</p>		
第2回	保育方法の基本						
第3回	乳幼児の理解と保育方法						
第4回	環境による保育とは						
第5回							
第6回	遊びによる総合的指導とは						
第7回							
第8回	保育における個と集団						
第9回							
第10回	発達の時期に応じた保育のあり方						
第11回							
第12回	行事を活かした保育の展開						
第13回							
第14回	さまざまな工夫が求められる保育						
第15回	試験						
	出版社名	書籍名					
テキスト							
参考文献	フレーバル館 フレーバル館	幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
単位認定方法	試験・レポート・出席状況等を総合して評価します						

授業計画

科目名	リズム表現Ⅱ				担当	岡崎由美子	
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践に役立つ演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
					教養・必修・ <u>選択必修</u> ・幼免		

【授業の目的・ねらい】

子どもの音楽表現に必要な演奏技術を身に付けるとともに表現活動を体験し、保育実践へとつなげていく。

【授業全体の内容と概要】

リズムを基盤に、自らの身体を十分に使い音楽表現できる力をつけるとともに、保育の中で子どもの表現力を的確に受容しさらなる表現力へと展開していくことができる指導力をつける。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

音楽的知識を理解したうえで、場面にふさわしい音楽表現や指導ができ、協働しながら実践発表する。

授業計画

第1回	オリエンテーション		
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○保育の中の音楽とは ・子どもの遊びと音楽 ・保育の中で歌う 子どもの歌 ・リズム表現 ボディーパーカッションを楽しむ ・音つなぎ遊びを楽しむ ・創作活動 (リズム表現と絵本) 	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ※ロールプレイングを通し、 保育実践に備える。 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> ※ピアノ実技においては、 各自が前向きに取り組み、 更なる技術向上を目指す。 </div>	
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			→調べ学習、グループ練習を含む
第14回			※ 一つの作品を協働して創り上げる
第15回			発表

	出版社名	書籍名
テキスト		
参考文献	全音楽譜出版社	ダルクローズ・システムによるリズム指導
単位認定方法	授業態度、提出物、実技等	

授業計画

科目名	造形表現Ⅱ				担当	廣江 潮美	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
				15	教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 幼児の造形教育において必要な知識、技術の理解、習得を深め、造形的な保育実践力を養う。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 1. 授業は、「演習」の形式ですすめる。 2. 造形表現体験が中心となるため、授業前後における材料、用具の準備、片付け、服装等の用意が必要となる。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 幼児の豊かな造形表現を指導、援助するために、造形表現体験を通して、造形活動の知識や技術の理解、習得を深める。 2. 保育実習に向けて、題材研究、教材化、造形表現の展開等、保育の造形的実践力を養う。 3. 作品や画像・製作の資料・感想等を各自スケッチブックにまとめ、振り返りや今後の指導資料として活用する。</p>							
授業計画							
第1回	<p>【オリエンテーション】「造形表現Ⅱ」のねらいと内容について 幼児の造形教育の果たす役割と授業の取り組み方 幼児の作品の見方、関わり方</p>						
第2回	<p>【模擬保育体験】教具づくりの「発想・構想」『事例a～o』(pp.84-138) 幼稚園教育実習に向けて 実践例「保育実習で活用する教具づくり」(pp.84-105)-いろいろな材料・技法を生かして-</p>						
第3回	<p>【模擬保育体験】「製作(1)」『事例a～o』(pp.84-138) 幼稚園教育実習に向けて 実践例「保育実習で活用する教具づくり」(pp.84-105)-いろいろな材料・技法を生かして-</p>						
第4回	<p>【模擬保育体験】「製作(2)」『事例a～o』(pp.84-138) 幼稚園教育実習に向けて 実践例「保育実習で活用する教具づくり」(pp.84-105)-いろいろな材料・技法を生かして-</p>						
第5回	<p>【模擬保育体験】「製作(3)」『事例a～o』(pp.84-138) 幼稚園教育実習に向けて 実践例「保育実習で活用する教具づくり」(pp.84-105)-いろいろな材料・技法を生かして-</p>						
第6回	<p>【模擬保育体験】「製作(4)」『事例a～o』(pp.84-138) 幼稚園教育実習に向けて 実践例「保育実習で活用する教具づくり」(pp.84-105)-いろいろな材料・技法を生かして-</p>						
第7回	<p>【模擬保育体験】「作品発表会」 製作した教具を活用した模擬保育(幼児側と保育者側に分かれて)</p>						
第8回	<p>【美術基礎実習】①『事例:平面表現D』(p.147) 実践例「折り紙を使って色面構成をしよう」</p>						
第9回	<p>【美術基礎実習】②『事例:平面表現E』(p.148) 実践例「鉛筆・色鉛筆を使ってグラデーションをつくろう」</p>						
第10回	<p>【美術基礎実習】③『事例:立体表現A』(pp.151-152) 実践例「いろいろな紙でつくる」</p>						
第11回	<p>【美術基礎実習】④『事例:立体表現C』(pp.155-156) 実践例「紙粘土でつくる」</p>						
第12回	<p>【美術基礎実習】⑤『事例:伝承の遊びC』(pp.167-168) 実践例「伝承行事に使うものをつくろう」</p>						
第13回	<p>【美術基礎実習】⑥『事例:伝承の遊びC』(pp.167-168) 実践例「伝承行事に使うものをつくろう」</p>						
第14回	<p>【美術基礎実習】⑦『事例:伝承の遊びC』(pp.167-168) 実践例「伝承行事に使うものをつくろう」</p>						
第15回	<p>【ま と め】作品発表・鑑賞、まとめ-幼児造形教育の果たす役割と援助のしかた-</p>						
	出版社名		書籍名				
テキスト	三晃書房		『新造形表現 -実技編-』				
参考文献	日本文教出版		『美術 -表現と技法-』				
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(作品、感想等を記録・整理したスケッチブック)						

授業計画

科目名	保育実習指導Ⅱ				担当	杉本真衣子	
実務経験	保育業務に携わった経験を活かし、実践に役立つ演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> 医療ビジネス	<input type="checkbox"/> ITビジネス
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ <u>必修</u> ・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
<p>保育実習Ⅱにおける総合的な学びから保育の具体的理解と保護者支援の理解を深める。実習と既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。また、実習事後指導から総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にする。</p>							
【授業全体の内容と概要】							
<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p>							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
<p>保育について総合的に理解し、実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ保育の実践力を習得する。また自らの保育に対する総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>							
授業計画							
第1回	オリエンテーション						
第2回	保育実習Ⅰの振り返り 自己課題						
第3回	保育実習Ⅱの意義・目的・内容						
第4回	保育士の専門性と職業倫理						
第5回	記録について						
第6回	保育技術の実際 指導実習について						
第7回	指導案作成練習						
第8回	指導案作成練習						
第9回	多様な保育ニーズの実際と対応						
第10回	家庭(保護者)とのコミュニケーションの実際について						
第11回	子育て家庭支援の実際とその対応について						
第12回	他専門機関との連携の実際について						
第13回	実習前指導						
第14回	実習内容の確認、振り返り						
第15回	報告会準備						
	報告会						
	まとめ 自己課題を明確化する						
	出版社名			書籍名			
テキスト	中央法規 萌文書林 萌文書林			保育実習 部分実習指導案集 保育者になるための国語表現			
参考文献	フレーベル館			保育所保育指針解説			
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・事前事後学習・小テストなどをもとに総合的に評価する						

授業計画

科目名	国語(書写を含む)				担当	山岡 雄一郎	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
				15	教養・必修・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 国語に対する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、国語教育及び言語生活について考える力を育てる。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 日本語の特徴を表記、音声、語彙、文法などの面から理解を深めるとともに、今日の国語問題や言語環境について考える。また、硬筆を中心とした書写の実践も行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 国語に対する基本的・基本的な知識を身につけるとともに、言語生活を広い視野から考えようとする態度を養う。</p>							
授業計画							
第1回	日本語の特色(1)						
第2回	日本語の特色(2)						
第3回	日本語の音声の特徴(1)						
第4回	日本語の音声の特徴(2)						
第5回	日本語の語彙について(1)						
第6回	日本語の語彙について(2)						
第7回	日本語の文字及び表記法について						
第8回	日本語の文法について(1)						
第9回	日本語の文法について(2)						
第10回	日本語の文法について(3)						
第11回	日本語の文法について(4)						
第12回	日本語の方言について						
第13回	日本語の敬語について						
第14回	国語をとりまく現代の言語環境について						
第15回	試験						
	出版社名			書籍名			
テキスト	岩波新書			金田一春彦著『日本語 新版 上下』			
参考文献	萌文書林			保育者になるための国語表現			
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験						

授業計画

科目名	就職支援				担当	佐々木明美	
実務経験						授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	7	8	教養・必修・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
進路を意識し履修意欲を高め、社会人としての知識技能を身につけるとともに、これからどう生きていくのかを考える。							
【授業全体の内容と概要】							
就職を念頭に置き、コミュニケーション演習・就職対策指導を2年間通じて継続的に学習する。							
各回の内容を習得しながら身につけていき、社会人としての高い人間性を目指す。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
「保育士として」「社会人として」のルールを学びながら進路意識、目的意識を明確にする。							
授業計画							
第1回	就職支援学習について				第16回	就職の流れについて	
第2回	就職先と保育所実習について				第17回	自己分析	
第3回	保育所実習先について				第18回	ジョブカードの作成	
第4回	実習依頼の方法・園(所)訪問の方法				第19回	ジョブカードの修正	
第5回	自分の目指す保育士について				第20回	目指す保育者像について	
第6回	ジョブカード作成				第21回	ボランティア活動と就職計画	
第7回	就職活動の流れ				第22回	自己PRについて	
第8回	求人の動向や就職試験の傾向				第23回	実際の仕事について	
第9回	履歴書の書き方				第24回	過去問題に挑戦(小論文)	
第10回	実際の仕事について				第25回	過去問題に挑戦(専門試験)	
第11回	就職につながる実習のありがた(保育所)				第26回	履歴書作成について	
第12回	保育所に関する調べ学習				第27回	模擬個別面談	
第13回	グループ発表				第28回	模擬グループ面談	
第14回	自己理解と自己PRについて				第29回	模擬面談	
第15回	就職につながる実習のありがた(施設)				第30回	まとめ 進路希望調査	
テキスト	なし						
参考文献							
単位認定方法	出席日数・提出物等						

授業計画

科目名	子ども家庭支援論				担当	持田 陽子/舟木 賢治		
実務経験							授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15		教養・必修・選択必修・幼免			

【授業の目的・ねらい】

子育て家庭に対する支援がなぜ必要か、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、問題解決の実際を知る。

【授業全体の内容と概要】

保護者との信頼関係を結びながら、ともに育てる関係作りや地域の関係諸機関との連携の仕方などについて学習する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子どもの家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

授業計画

第1回	子ども家庭支援の意義と役割(持田)	(1)子ども家庭支援の意義と必要性
第2回		(2)子ども家庭支援の目的と機能
第3回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(舟木)	(1)保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
第4回		(2)子どもの育ちの喜びの共有
第5回		(3)保護者の養育力向上に資する支援
第6回		(4)保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)
第7回		(5)家庭の状況に応じた支援
第8回	子育て家庭に対する支援の体制(持田)	(1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第9回		(2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
第10回	多様な支援の展開と関係機関との連携(持田)	(1)子ども家庭支援の内容と対象
第11回		(2)保育所等を利用する子どもの家庭への支援
第12回		(3)地域の子育て家庭への支援
第13回		(4)要保護児童等およびその家庭に対する支援
第14回		(5)子どもの家庭支援に関する現状と課題
第15回	定期試験	

	出版社名	書籍名
テキスト	中央法規	保育相談支援
参考文献		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験	

授業計画

科目名	子どもの育ちと文化				担当	岡崎由美子/佐々木明美		
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、学生に演習を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
					教養 (必修)・ 選択必修 ・ 幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 より実践的な技術の向上を目的とし、基本を抑えた上での表現の幅を広げていく 幼児期の玩具の返還及び現状と課題について認識を深めるとともに、幼児を対象とした玩具の作製を実践する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育の中の文化活動を体験的に学び、技術として身につける 子どもの玩具についての知識や必要性、子どもにふさわしい玩具とはどんな玩具なのかを学ぶとともに遊ぶことの楽しさを体験する</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育の内容を理解し言語表現活動を体験的に学ぶ 子どもの遊びを豊かにする展開方法を学ぶ 具体的な遊びの工夫(伝承遊び・創作遊び)、技術(絵本の読み聞かせ・芝居を演じる・素話等)を身につける 幼児期の発達における玩具の役割とその重要性を理解する 幼児の玩具遊びの実態を認識し、現代的課題について考える 幼児を対象とした玩具を作製する</p>								
授業計画								
第1回								
第2回								
第3回								
第4回 みんなでテーマを決め、実践発表を行う								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回 評価								
第9回 子どもの発達における玩具の役割								
第10回 玩具の歴史と返還・玩具と保育								
第11回 玩具の作製(1)								
第12回 玩具の作製(2)								
第13回 玩具の作製(3)								
第14回 玩具の作製(4)								
第15回 評価								
			出版社名			書籍名		
テキスト			なし					
参考文献								
成績の評価の方法			授業態度・出席状況・提出物					

授業計画

科目名	子どもの健康と安全				担当	赤浦 佐依	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
				15	教養 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境とその整備、必要な援助について理解し、説明できるようになる。</p> <p>2. 保育における保健的対応の基本的な考え方を理解し、子どもの発達や状況を考慮した上で、体調不良等に対して適切な対応をとるにはどうすればよいかを具体的に理解できる。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、講義をベースに演習を組み入れながら学習の理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>1. 子どもにとって望ましい保育環境を考え、保育現場の衛生管理や安全対策について説明できる。</p> <p>2. 子どもが疾病を負った場合に、適切に対応することができる。</p> <p>3. 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的な連携について説明できる。</p>							
授業計画							
<p>第1回 保育における保健環境・保健活動とは</p> <p>第2回 保育環境の整備① 園舎の衛生管理</p> <p>第3回 保育環境の整備② 事故防止と安全対策</p> <p>第4回 保育環境の整備③ 事故防止と安全対策 ～子どもの目で見た生活環境～ [演習]</p> <p>第5回 保育における保健活動① 保健だよりを作成しよう [演習]</p> <p>第6回 保育における保健活動② 母子保健対策と他機関との連携</p> <p>第7回 保育における保健活動③ 子どもの健康状態および発育発達状況の把握</p> <p>第8回 保育における保健活動④ 身体測定 記録とその評価 [演習]</p> <p>第9回 保育における保健的対応① 健康観察と症状別の養護</p> <p>第10回 保育における保健的対応② 症状別の養護、保育現場での薬の取り扱い</p> <p>第11回 保育における保健的対応③ 傷害が発生した時の応急処置</p> <p>第12回 保育における保健的対応④ 応急処置、個別的配慮を要する子どもへの対応 [演習]</p> <p>第13回 保育における保健的対応⑤ 事故発生時の対応 [演習]</p> <p>第14回 " 心配蘇生法と気道内異物] [演習] (日本赤十字社島根県支部より指導)</p> <p>第15回 試験</p>							
	出版社名		書籍名				
テキスト	ななみ書房		「子どもの健康と安全」 中根淳子・佐藤直子 編著				
参考文献			なし				
成績の評価の方法	試験(50%)、提出物(40%)、授業態度(10%)を総合して評価します。						

授業計画

科目名	社会的養護Ⅱ				担当	持田 陽子	
実務経験						授業形態	演習
単位数	1				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
				15	教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 子ども理解を踏まえた結果社会的養護の基礎的な内容について理解する 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子どもの最善の利益を考察し、保育者として具体的な子どもに対する養護を学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 子どもの最善の利益を考察した結果、保育者として具体的な子どもに対する養護を理解する</p>							
授業計画							
第1回	社会的養護における子どもの理解						
第2回	家庭養護の生活特性及び実際						
第3回	社会的養護における家庭支援						
第4回	施設養護の生活特性及び実際 乳児院						
第5回	施設養護の生活特性及び実際 障害児施設等						
第6回	社会的養護の内容①日常生活支援						
第7回	社会的養護の内容②心理的支援						
第8回	社会的養護の内容③自立支援						
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成						
第10回	記録及び自己評価						
第11回	社会的養護における保育の専門性に関わる知識と技術その実践						
第12回	社会的養護における相談援助の知識と技術その実践						
第13回	今後の社会的養護の課題と展望						
第14回	まとめ						
第15回	試験						
	出版社名				書籍名		
テキスト							
参考文献					適宜授業にて資料配布		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験						

授業計画

科目名	子育て支援				担当	舟木 賢治/持田 陽子	
実務経験						授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
			15		教養・ 必修 ・選択必修・幼免		

【授業の目的・ねらい】

保護者に対する相談支援の必要性を理解するとともに、保育士の専門性を生かした支援と問題解決の方途について具体的に理解する。

【授業全体の内容と概要】

保護者との信頼関係を結びながら、ともに育てる関係作りや地域の関係諸機関との連携の仕方などについて学習するとともに、演習課題をとおして支援の実際について考える。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保育相談支援(保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、事例を通して具体的に理解する。

授業計画

第1回	保育士の行う子育て支援の特性 (舟木)	(1) 子どもの保育とともに行う保護者の支援
第2回		(2) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
第3回		(3) 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
第4回	保育士の行う子育て支援の展開 (舟木)	(1) 子ども及び保護者の状況・状態の把握
第5回		(2) 支援の計画と環境の構成
第6回		(3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
第7回		(4) 職員間の連携・協働
第8回		(5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
第9回	保育士の行う子育てとその実際(内容・方法・技術) (持田)	(1) 保育所等における支援
第10回		(2) 地域の子育て家庭に対する支援
第11回		(3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
第12回		(4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
第13回		(5) 子ども虐待の予防と対応
第14回		(6) 要保護児童等の家庭に対する支援
第15回	定期試験	(7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

	出版社名	書籍名
テキスト	中央法規	子育て支援
参考文献		
単位認定方法	授業態度・出席状況・提出物；定期試験	

授業計画

科目名	音楽基礎Ⅲ				担当	奥村志帆		
実務経験						授業形態	演習	
単位数	2				学科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・必修・選択必修・幼免			

【授業の目的・ねらい】

個々に合わせた演奏技術のレベルアップ、実践の場で活用できるスキル・指導法を習得する。

【授業全体の内容と概要】

- ・こども曲を使用し、実践の場での年齢に応じた指導法・演奏法を学ぶ。
- ・調号2つまでの調を理解し、レベルにあったアレンジで演奏する。
- ・これまでに習得した実技を活用し、グループごとに音楽発表を行うことでステージ場面構成力を身に付ける。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

- 音楽表現Ⅰ・Ⅱで習得した基礎力を応用し、以下のことを習得する。
- ・保育現場で活用できる曲を使用し、ピアノ曲3曲・弾き歌い3曲の計6曲を曲にあった表現で演奏できる。
- ・調号2つまでの、コードネームでの伴奏付けや移調、アレンジをすることができる。
- ・グループで音楽発表をすることで、楽器や歌の活用方法を学び、場面構成ができるようになる。また、意見を出し合い話しあうことで、振り返り修正・再構成ができる。

授業計画

第1回	授業の概要を理解する・個々のレベルに合わせた曲選び・グループ分け			
	ピアノ実技	伴奏付けアレンジ	音楽発表	音楽指導法
第2回	レパートリー(個人)① レパートリー(弾き歌い)①	ハ長調	合奏	対象:年少
第3回	↓	ト長調	音楽ゲーム	対象:年中
第4回	↓	ヘ長調	おんがく絵本	対象:年長
第5回	↓	イ短調	合唱	①
第6回	↓	ホ短調	身体表現・手遊び	②
第7回	レパートリー(個人)② レパートリー(弾き歌い)②	ニ短調	上記をふまえ、 グループごとに 発表題材を決め 準備をする。	③
第8回	↓	ニ長調	↓	④
第9回	↓	変口長調	↓	⑤
第10回	↓	ロ短調	↓	⑥
第11回	↓	ト短調	グループ①発表	⑦
第12回	レパートリー(個人)③ レパートリー(弾き歌い)③	復習	グループ②発表	⑧
第13回	↓	↓	グループ③発表	⑩…
第14回	↓	↓	各発表後、クラス全体で ディスカッションをする。 ☆レポート作成	選んだ曲を生徒に あった高さ(key)に移調 し、年齢・場面に応じた 歌唱指導を公開する。
第15回 試験	レパートリー個人・実技試験 レパートリー弾き歌い・実技試験	コードネームによる 伴奏付け実技試験	音楽発表についてのレポート を、グループごとに提出	
	全音 野ばら社	きらきらピアノポピュラーメロディーズ(レベルによって1・2・3) 伴奏付き こどものうた		
		こども曲プリント集		
成績評価の方法	授業態度・出席状況・実技試験・レポート			